

# 乙訓保健所管内の感染症発生動向調査による週報 (小児科定点、インフルエンザ定点)

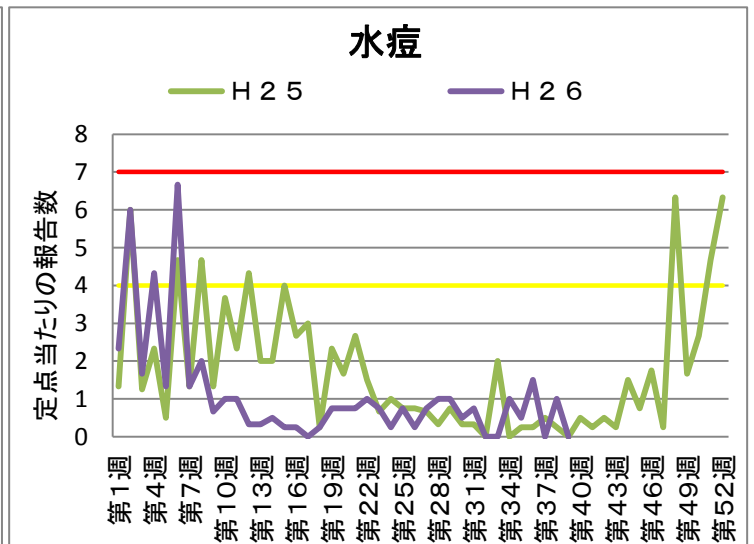
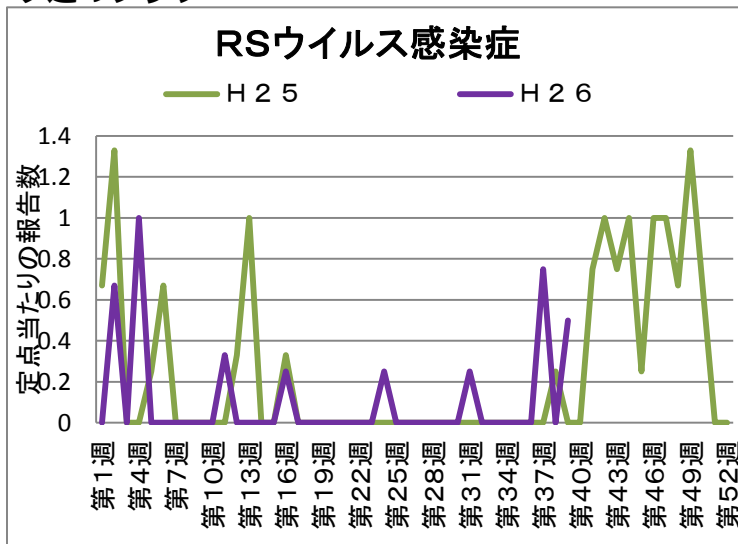
第 39 週 平成26年9月22日 ~ 平成26年9月28日

## 今週のコメント

RSウイルス感染症の報告が再び増加傾向です。RSウイルスの感染経路は飛沫感染と接触感染で、0歳児と1歳児は肺炎などを合併して重症化することがあるので注意が必要です。年長児や成人は感冒様症状のみである場合が多いので、咳等の呼吸器症状のある年長児や成人は、可能な限りマスクを着用し、0歳児と1歳児との接触を避けることが重症化しやすい乳幼児への感染予防につながります。

10月1日より、水痘(水ぼうそう)ワクチンが定期接種となり、接種対象者は公費で接種できるようになりました ([http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/varicella/](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/varicella/))。

## 今週のグラフ



\* 赤線 — 流行警報基準値です      黄線 — 警報継続基準値です

## 今週の報告状況

疾病名	定点当りの報告数	疾病名	定点当りの報告数
インフルエンザ	-	手足口病	0.5
RSウイルス感染症	0.5	伝染性紅斑	0.25
咽頭結膜熱	0.5	突発性発しん	0.75
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.25	百日咳	-
感染性胃腸炎	3.25	ヘルパンギーナ	-
水痘	-	流行性耳下腺炎	-

定点当りの報告数 = 一週間の報告件数総数 / 定点数

\* 乙訓管内 インフルエンザ定点数：7箇所、小児科定点数（インフルエンザ以外の疾病）：4箇所

## 参考資料等

報告週対応表

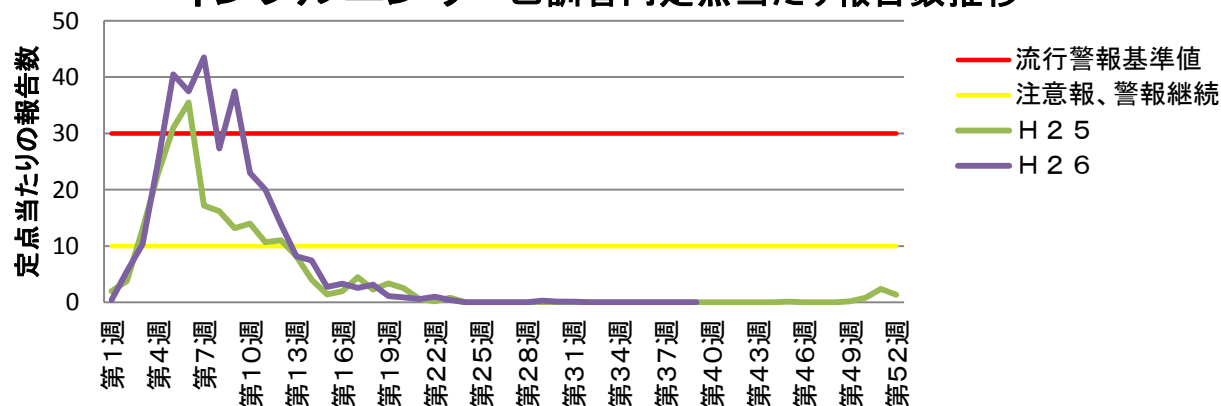
警報・注意報基準値の説明

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

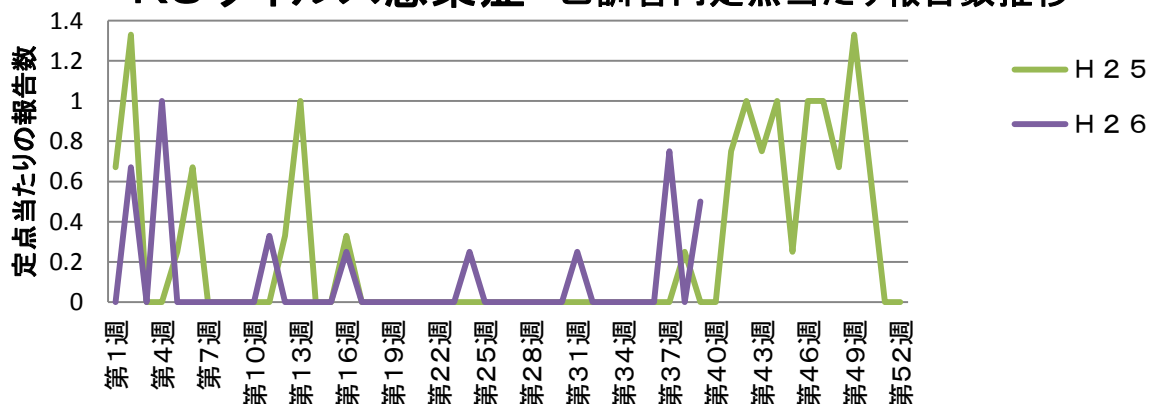
<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/inf-keiho/guide05.html>

## 定点報告による各疾病の推移

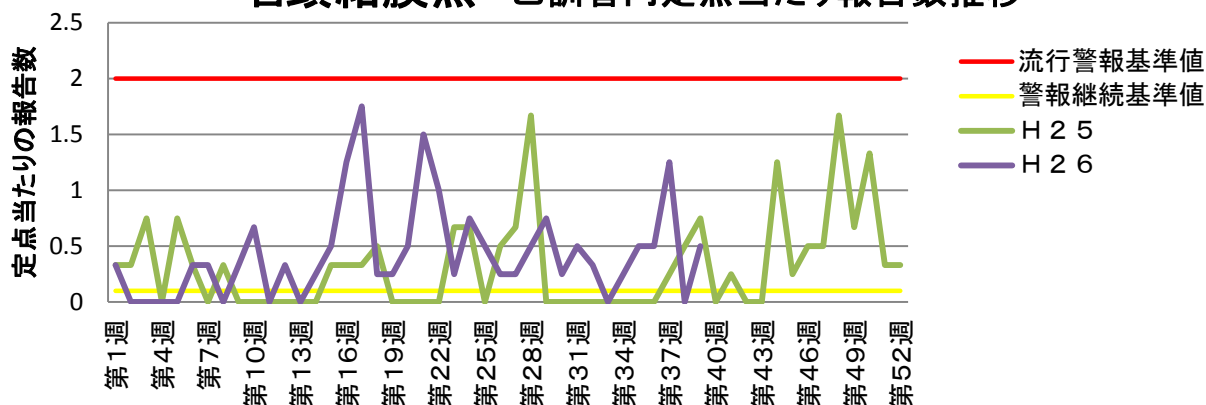
## インフルエンザ 乙訓管内定点当たり報告数推移



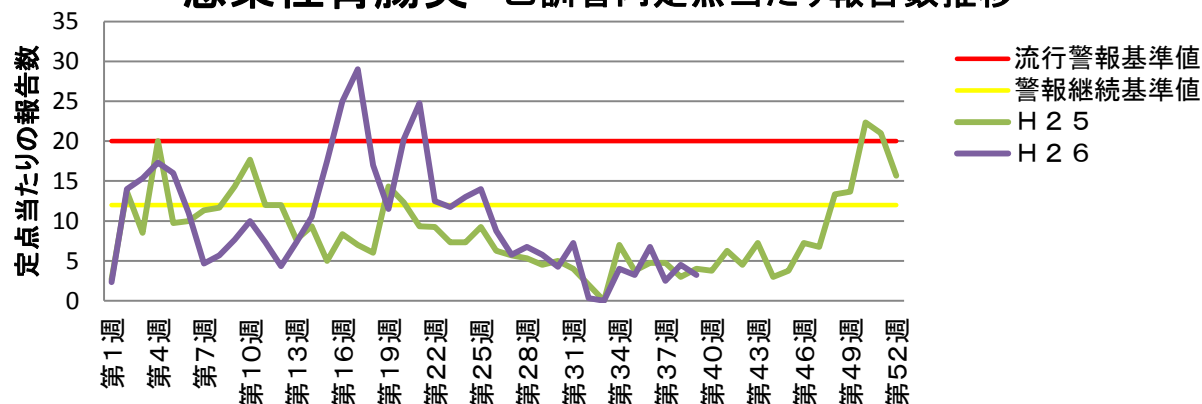
## RSウイルス感染症 乙訓管内定点当たり報告数推移



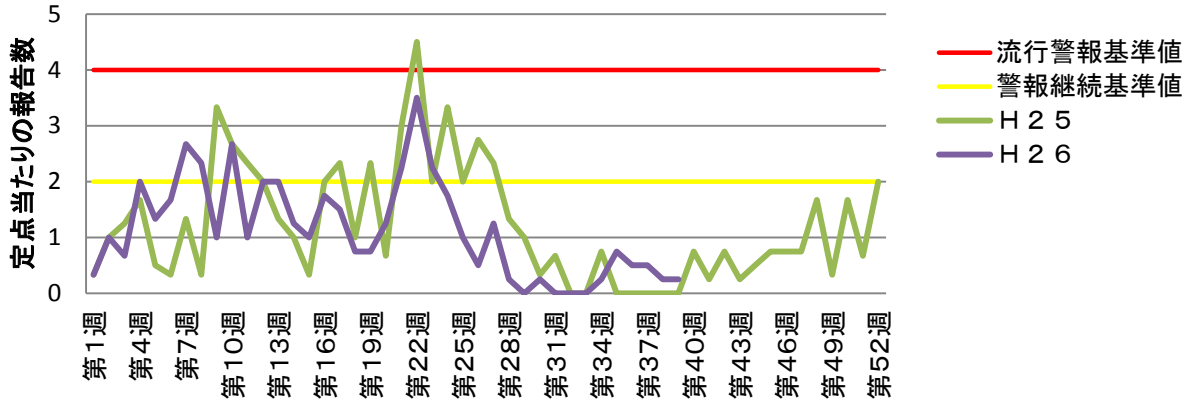
## 咽頭結膜熱 乙訓管内定点当たり報告数推移



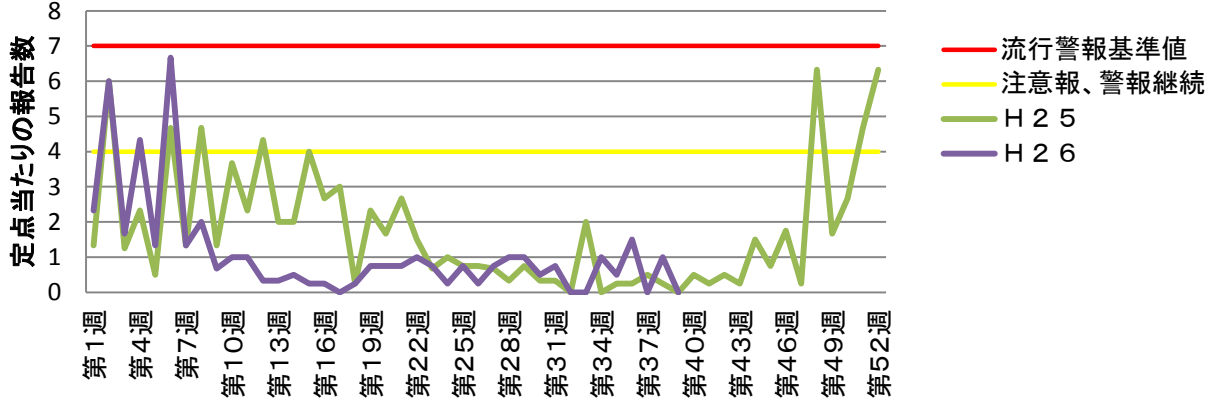
## 感染性胃腸炎 乙訓管内定点当たり報告数推移



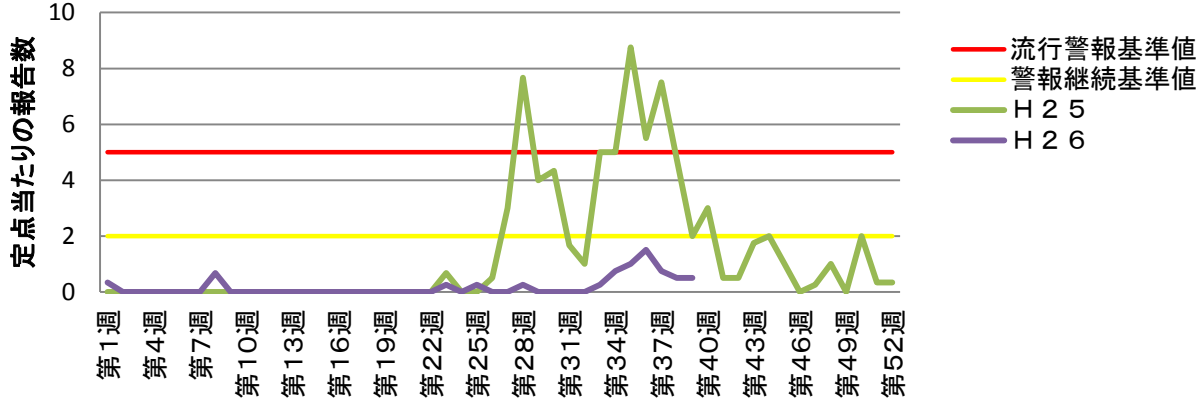
### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 乙訓管内定点当たり報告数推移



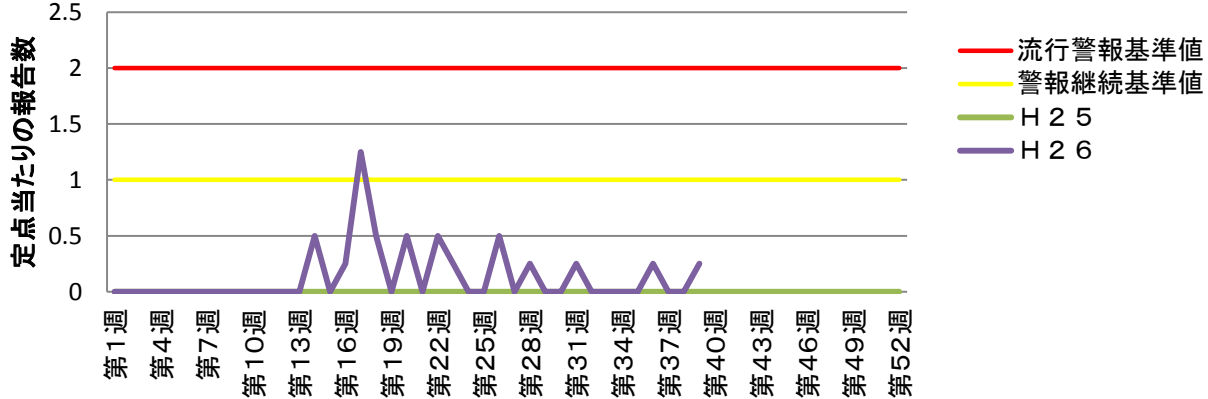
### 水痘 乙訓管内定点当たり報告数推移



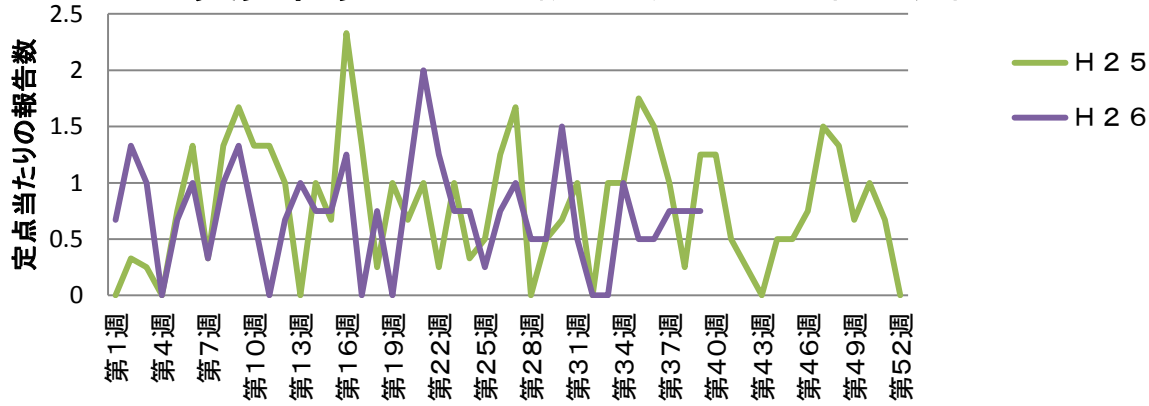
### 手足口病 乙訓管内定点当たり報告数推移



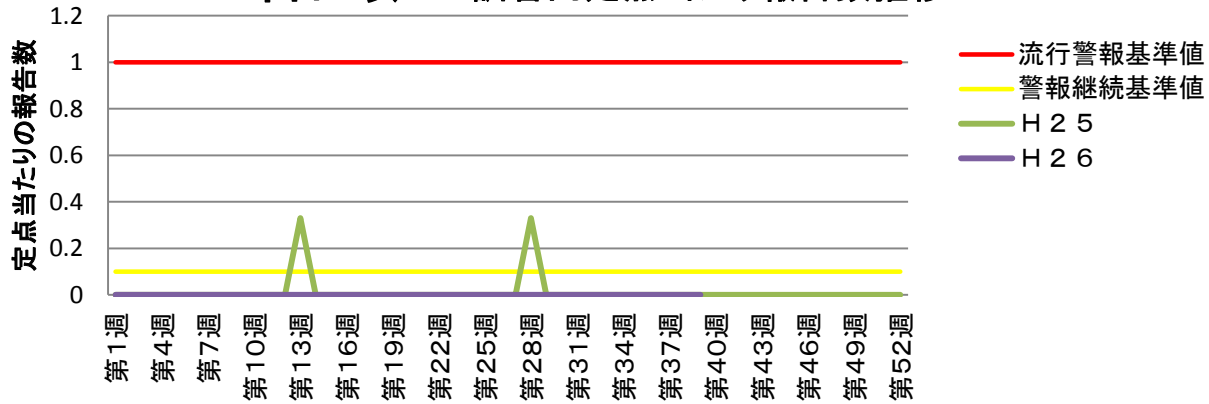
### 伝染性紅斑 乙訓管内定点当たり報告数推移



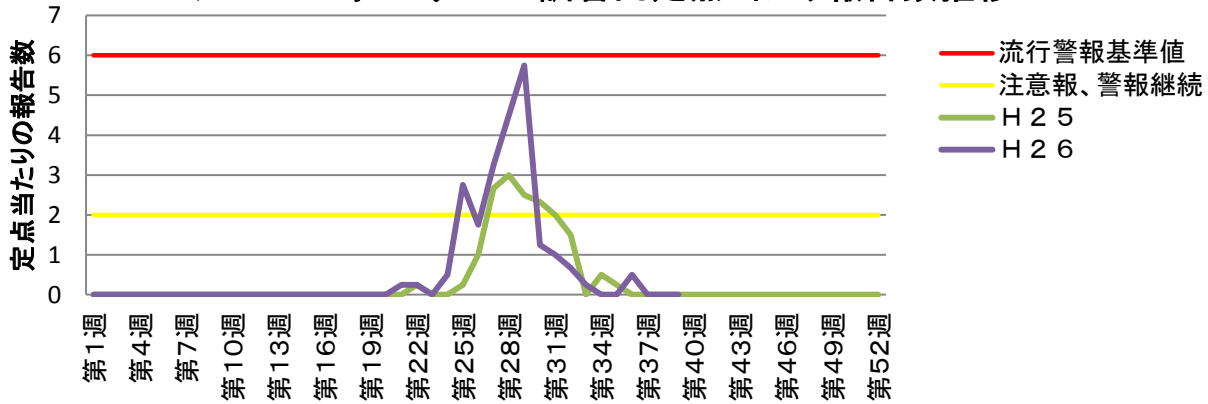
### 突発性発しん 乙訓管内定点当たり報告数推移



### 百日咳 乙訓管内定点当たり報告数推移



### ヘルパンギーナ 乙訓管内定点当たり報告数推移



### 流行性耳下腺炎 乙訓管内定点当たり報告数推移

